第４回門真市魅力ある教育づくり審議会

（第３回つながりのある教育の創造部会）議事録

開催日時　平成 29 年６月 29 日（木）　午後２時 40 分～午後４時 40 分

開催場所　市役所本館２階　大会議室

出 席 者　佐久間敦史、小林美鈴、横貫照国、国吉孝、齋藤耕司

事 務 局　満永教育部長、水野教育部次長、三村学校教育課長、髙山学校教育課参事、黒木教育総務課課長補佐、松岡教育総務課副参事

傍 聴 者　１名

議　　事

佐久間部会長

「つながりのある教育の創造部会」を開催させていただきます。

それでは、まず事務局から今回の部会での議題について説明をお願いします。

事務局（三村学校教育課長）

今回のつながりのある教育の創造部会におきましては、先程、事務局からも説明がございましたとおり、当初より予定をされておりました「小中一貫教育を進める環境づくり」に加えまして、「きめ細かな指導を実現する 35 人学級」について、様々なご意見を頂戴する関係から、「小中一貫教育の視点も含めた 35 人学級のあり方」の２本立てで議論をしていただきたいと考えております。

時間配分といたしまして、先ほどの分が長くなったこともあって現在 14 時 40 分でございますので、終わりが 16 時 30 分として進めていただければと思います。16 時 30 分には全体会にてまとめの報告をお願いしたいと考えております。よろしくお願いいたします。

それではまずは、「小中一貫教育の視点も含めた 35 人学級のあり方」について、ご議論願いたいと考えておりますが、討議の柱といたしましては、先程、事務局の髙山よりパワーポイントにて説明をさせていただいた内容を参考にしていただきまして、「３５人学級制度は、小中一貫教育の観点や学力向上等にお

いて、どのような効果があったのか。」というところを中心に、ご議論願いたいと考えております。

なお、ある程度、皆様からにご議論いただいたところで、「小中一貫教育の視点も含めた 35 人学級のあり方」について部会長にまとめていただきたいと思います。

休憩後、２部は「小中一貫教育を進める環境づくり」をテーマとして、①35 人学級も含め、さらなるきめ細かな指導のために有効な施策について、②円滑な小中の接続のために有効な学校環境はどのようなものがあるか、③門真市において義務教育学校を視野に入れて、今後の学校の在り方を考えていくことについての３点を討議の柱として、ご議論願いたいと思います。

またこちらにつきましても、ある程度、皆様からのご議論いただいたところで、「小中一貫教育を進める環境づくり」について部会長にまとめていただきたいと思います。

○１．「小中一貫教育の視点も含めた 35 人学級のあり方」について

佐久間部会長

ではということで、この間に数回議論をさせていただいて、それぞれのお立場でそれぞれのご経験とかで大変興味深い意見を毎回いただいているということもありますし、それから中間答申案の取りまとめの時期にきておりますので、一定を今日は時間も取っていただいていますので、なるべく自由に活発に意見をいただこうかなと思っています。なので、まず私からまとめに走るような司会の仕方はしないでおこうと思っています。

是非先ほどの教育委員会からの説明やそれぞれの立場から 35 人学級や小中一貫教育に対するご意見をいただけたらなと思っています。ということで１つ目の議題ですけれども、35 人学級制度は小中一貫教育の観点や学力向上等においてどのような効果があったのか。

先ほどのグラフとかご説明を含めて、あるいはご自身のご経験もそうですが、少し思い出していただきながら、35 人学級で少し人数が少な目の学級制度の効果のようなことについて、意見や質問等も含めてどんどん話し合いができたらなと思っています。

少し専門的な感じになるので、学校から言い出すと、話しにくくなると思いますので、どうでしょうか。何も分からないということも含めてざっくばらんにお話しいただいたのはどうでしょうか。

小林委員

まず 35 人学級というのが多いのか少ないのかが私判断できないんです。いろいろ資料見せてもらったんですけど、あんまり少なくても多くても変わらないような感じに受け取ったんです。どうなんでしょうか。多いんでしょうか。少ないんでしょうか。

佐久間部会長

どなたでもお願いします。

国吉副部会長

日本でこうやって生活してますけれども、先進国と言われてるところの教育環境と日本の学級の人数と比べると日本ではまだまだ多いと思うのです。なので 35 人でも私はその数字がまだ大きく感じております。ということは先進国と言われるところでは少ない人数に教師が１人ついて、２人のところもあるかもしれませんが、一人一人に手厚く細かく適切に教育指導をしていく、そういったところが大きな世界的な流れじゃないかと思っております。我々私自身が実

際小学生の頃、40 人、45 人、50 人近くのクラスにいた時と比べて、今の状況は改善されたと思うんです。ただ、この 35 人というのは今現在減ってきたところと
比べたら非常に良い段階だと思うんですけれども、これから先の方向性展望を考えるとまだまだクラスの人数を減らすべきじゃないかと考えております。

齋藤委員

本校において現在６年生が５年生の時は 40 人近いクラスで１クラスだったんですけど、６年生に進級しまして市の方から 35 人学級の任期付きの教員を配置していただきまして 20 人程度の学級編制になりました、担任は１人そのまま持ち上がったんですが、やはりきめ細かな指導、本人もゆとりを持っての指導ができているなというのが傍目から見ても感じるところであります。やはり少人数でのきめ細かな丁寧な指導というのは、すごく重要であるなというのは痛感しているところです。

横貫委員

先程のグラフがでたんですが、あの分析をする人はすごいと思いました。見てる角度がすごいと思いました。今回その 35 人ということなんですけど、お客さんで学校の先生がいて、２，３聞いてみましたが、一人でも少ない方がいいと言っています。何十人も見るのは結構大変と聞いています。自分自身は見ていないので、分かりませんが、自分自身はスタッフを抱えていて今４名いていますが、４名でも大変なんですよ。なので 35 人でもやっぱり大変だろうとすごく思います。やっぱり少ない方がいいような気はするんですけど、ただ先生の人数と生徒の人数と少子高齢化なのでバランスが取れるのかなと思いました。

国吉副部会長

少し違う視点になるかと思うのですが、教師の数ということでは、少し話がそれます。日本では教員の数が足らないということで、どんどん増やしてきた状況があったと思うのです。ところがここ最近は子どもの数が減少しているということを盾に、教員を逆に減らす方向にきています。大まかにみて国家予算の中に占める教育の予算は過去はほとんど増えてきた状態があったんですね。ところが今見ると、全体に占める教育の割合はかなり圧縮されています。それが強いては今言っているような教員の人数を減らす方向、自然減があるから、それに合わせた方向になってるんじゃないかと思われます。将来子どもたちのことを考えれば、日本のことを考えるのであれば、やはり市町村単位ではできないですが、国全体で教育予算について再度考えるということも必要じゃない

かと思います。少し話がそれましたけれども。以上です。

佐久間部会長

一応人数のことだけ申し上げると。文科省の資料で日本の例えば公立の初等教育ですので小学校の平均が 28 人なんです。2008 年ですけど、28 人です。OECD 諸国の平均が 21 人なんですね。でも平均なので、どんなことが起こってるかというと日本は 40 人が上限なので、40 人を超えると 20 人、20 人に分かれるのですね。ですから 35 人学級で 35 人になるとそれ以上にならないように２つに分かれるので、少し難しいんですけども上限の設定が 35 人、だから平均するともう少し少ない人数で見ています。上限は国によって違って 30 人を上限としている国もあれば、25 人を上限にする国もあって、上限を下げておけばそれ以上にはならないんですね。それが今日の教育委員会からのご説明でいうと、今のところあまり効果があるもないもなかなか見えないという感じの説明ですね。補足なんですけれども、余計分からなくなりました。何か今日の教育委員会のご説明とか資料を見ていただいて、この後の門真の子どもたちのためにということを検討しますので、もう少し疑問になったところとか、もう少し説明をしてほしいとか、そんなことがあれば、是非出していただいてればと思うんですけれども、いかがですか。

特にまず 35 人学級の話ですので、最初のこのパワーポイントの資料につきましては髙山先生の方から説明がありましたけれども、気づかれたこととかないですか。

特になければ質問を変えましょうか。

髙山先生これ 35 人学級の門真市の運用の仕方というのは、もう少し分かりやすく簡単に説明していただくと具体的にはどう使っているんですか。単純に学級担任として数を増やしているんですか。

事務局（髙山学校教育課参事）

その通りです。学級増のために使っていただくと。ただ少し補足しますと、６年生が対象学年で本来１クラスのところを２クラスに増やすとしますよね。その学年に、任期付き教員を必ず配置して下さいということは言ってないんです。分かりやすく説明するならば、例えば任期付き教員が１年生の担任に入って、その分もともと本来１年生に入る予定の先生が６年生に行くということはあります。直接そこに入るわけではないんですけれども、学級増のために使ってくださいという話はしております。

国吉副部会長

今言ってるように担任に充てなくても構わないってことなんですね。例えば生徒指導面でいろいろ課題のあるとこであれば、そこに使うことも可能ですし、学習面で少人数指導に充てることも可能です、また今言っているように担任に充てることも可能です。ただ、全体で総枠として１名プラスされますいうことです。それでいいですか。少し違いますか。少し違う。

事務局（髙山学校教育課参事）
少し訂正させていただくと、少人数のために、生徒指導のためにというご発言が国吉委員からですけれどもありましたが、それらの役割を担う方は国予算で加配という形で来ておりますので、そこに使用しないでくださいと言っております。担任もしくは担任外の先生、高学年で学校によって違いますが、理科とか音楽の先生に使ってもらう分には構わないですけれども。

佐久間部会長
グラフの中で説明があったと思うんですけれども、２ページを見たらわかりますけども、そのために何人の先生が雇われていて、例えばそのためにお金がいくらかかっているかとかいうような観点は非常に分かりやすいかなと思うんですが、いかがでしょうか。
そんなことを聞いていただいていいんですよ。是非是非それならもうあと 10 倍は雇ったらいいんじゃないかとか。それなら別のことに使ったらいいんじゃないかとか、そういうご意見もどんどんいただければなと思います。
すいませんお願いします。

事務局（髙山学校教育課参事）
大体のイメージですが、２ページを見ていただいたら分かるように、一番最初の所です。

国吉副部会長
２ページの右上ですね。

事務局（髙山学校教育課参事）
配置実績を書かしていただいておりますように、毎年 10 名前後の任期付教員を配置させていただいております。約７、８千万円ぐらいの予算規模となっております。平成 29 年度、今年度につきまして 11 名ということで例年より多くなっておりまして、また何か病休で休まれたりであるとか、産休入られたりということも想定して若干の予備の予算もとっております。このことから９千万

円を少し超えるような予算規模となっております。

佐久間部会長
　どうぞご意見あればどこからでも結構ですが。

国吉副部会長
　今言っているお金は市の予算を計上しているということですね。

事務局（三村学校教育課長）
　そもそもほんとに35人が多いのか少ないのか分からないというお話が小林委員からあったんですけど、根本は国の基準として、40 人で１クラスのマックスという、これは我々が違勘するところもない国の基準があります。それがなぜ40 人かというのはそこにも疑問があるんですけども、先ほどありましたように外国では 25 人とか 20 人とかいうところもあると思いますけど、日本という国では40人が最高の数です。そのため、41人になると、20人と21人の２クラスに分かれるという仕組みになっています。ただそれを最大限40というマックスを35人ぐらいまで落とすことで35人以上のクラスにならない、36人になった時には18人、18人に分かれるというふうにして、１人の先生が見る子どもの数の負担を少なくしてより細かく見えるようにしようということで、35 人というのを出しています。て 30 人でも、25 人でもいいわけで、10 人でもいいわけですけど､10人で11人の時は５人と６人のクラスになってしまうという制度です。

国吉副部会長
　さらに加えましょうか。国は40人を基準にしていますが、独自で小学校の場合１年生に関しては35人学級という対処をとっております。出した当時には他の学年にも広げていって、すべての学年に35人学級という話もあったんですけれども、多分金銭面予算の関係でそれができない状態で１学年、小学校１年生のみでしています。大阪府は小学校２年生についてはやりましょうということで、小学校２年生35人学級をやっています。

佐久間部会長
　いかがでしょう。人数のこととか使われている予算のこととかも数字をいただきましたけども、市民感覚で金額とか人数とか受けて何か感想とか意見等があれば是非お聞かせ願いたいですけれども。

小林委員

ですから 35 人で１クラスで、36 人になった時２クラスになるんですよね。そうなったら、先生の人数を増やさないといけないということなんですよね。

国吉副部会長
そうです。そうなったら予算化されます。２人分になります。

小林委員
ということは予算が増えるということですよね。それっていいことなんでしょうか悪いことなんでしょうか。

佐久間部会長
年によって違うというのは先ほどの表でもまさにおっしゃるとおりで、年によって９人にする時と 10 人にする時とがあり、11 人にすると単純計算で１人 700 万円、800 万円で計算すればいいですかね。

小林委員
でも門真市の財政的には増えてもらったら困るんですよね。どうなんでしょうか。

事務局（三村学校教育課長）
財政にＯＫって言っていただけたらそれは。潤沢に予算があるいうことだったらそれは当然したいですし、極端な話、国が全部の学年を 30 人でいきましょうと言ったら、市からのお金の持ち出しはなく少人数学級ができるとは思います。ただ、現状今国は国吉委員ら話があったように、１年生はやっぱり細かく見ようということで 35 人にしてくれと、２年生も府のお金で 35 人学級にしてくれる。小学校３、４、５、６、中学校１、２、３年については全部 40 人学級であり、そこに門真市は小学校５、６、中１は 35 人学級を市のお金を使ってでもやりましょうということで、ここまでやっているところです。

事務局（髙山学校教育課参事）
少し補足で、今のご質問については、担当として、来年何人分ぐらい必要になりそうだなとか思いながら予算取りの交渉をしておりますので、私自身いつも考えている部分です。当然ながらやはり市の予算というのは、限られているわけですね。限られている予算をどの事業にいくら使うかということが大事なことなんです。市民サービスであったり、教育の向上であったり。我々教育向上のために、例えば 29 年度で言えば９千万のお金を 35 人学級に使ってるわけ

ですけれども、それが本当に効果があることでしたら当然しっかり使っていくべきでしょうし、今回効果検証する中で、他にもっとより良い使い方があるんではないかということであったら、市民委員さんであるとか校長先生とか教頭先生に来ていただいているので、いろんなご意見をここへ出していただいて、それを参考に今後の我々の事業のあり方の参考にさせていただけたらなと思います。その使い方についてどうなんだろうと。場合によったら人数によれば1億円超えていきますから、それでいいのかとか。他にももっといい使い方があるんじゃないかとか多様な意見をだしていただければ、我々としてもありがたいです。よろしくお願いいたします。

佐久間部会長

冒頭、国吉委員、齋藤委員のご意見で35人学級はきめ細かに子どもが見れるので、35 人学級やもっと人数が少なくても先生が増えた方が現場としては助かるという学校側の意見を伺いました。そして教育委員会の髙山先生からは約1億円のお金を使うとして、今この少人数35人学級に使われていることをよしとするのか、あるいはもっとほかの使い方があれば、何かいいアイデアとかがあれば、希望があればということですが、その辺いかがでしょうか。

横貫委員

難しいですね。今回は難しいですね。やったらいいとしか思えないし、やってみないと分かりませんしね。35 人学級が少人数がやりやすいということであれば、やってもらえばいいと思いますし、先生の人数が足らなければ、それへ財源を費やしていただいてもいいとは思うのすがね。未来にかけるように頑張っていくというのはいいことだと思うので、先生たちもそれだけのお金をかけるんで、それだけの効果を出していただければ我々市民としてはいいんじゃないでしょうか。としか言えないんですが。

小林委員

そうですよね。ただ気になったのが、先生の数が減ってきていると言われていたじゃないですか。学級が増えることによって教職員の数を確保をできるんでしょうか。もしできないんであれば先生に代わる、例えば、その担任の先生をサポートする別の方をアルバイトとして雇うとかの方が、変な話経費がかからないとかいろいろと考えるんですけれども。主婦の考えですいません。

佐久間部会長

非常に面白い意見だと思うんですね。
例えば先生、教員免許を持って給料をもらう正規の学校の先生が授業を進めるわけです。それ以外に例えばもう少しお金を抑えてアルバイトでいろんな人、いろんな立場のいろいろな人を雇うとしたら、例えばどんな方を雇ったらというイメージを教えてもらえませんか。

小林委員
先生が人数が少なくて困ってるっていうことは想定して、担任の先生一人しか置けないとなった時に人数的に、クラスの中に例えば障がいがある子どももいていると思うんですよ。支援の必要な子どもがいて、その担任の先生一人がその他の生徒と一緒に指導するというのが多分大変だと思うんですよね。例えばですが。そういう時に、その専門的にフォローしてくれる介護士さんとかそういう専門的な方が入ってくれたら担任の先生もこの子どもはその方に任せて、その他の子どもに勉強を教えてあげれてスムーズに授業が進められるんじゃないかなとか思うんですけど。

国吉副部会長
今市で単費の費用で支援教育支援員さんというかたちで支援が必要な子どもに関わる人を配置してもらっていますし、また看護師さんも数人市の方で雇っています。それも学校に派遣されております。それが潤沢かと言うとそれは人数が限られていますのでまだ課題はあるかと思います。

佐久間部会長
今のようなアイデアで、横貫委員、小林委員何か追加でもかまいませんので、思いつかれることありますか。

横貫委員
今考えていてどんな人がいたら面白いかなと思って、安くて使える人でしょ。
ボランティアの地域の方、だれでしょうかね。

佐久間部会長
そのボランティアの地域の方はどんなことをやってもらえればいいと思いますか。

横貫委員
後ろで立っておいたらいいと思いますよ。授業を見てもらったら、ただそれ

だけで子どもたちに緊張感があるでしょうし、人に見られているという緊張感もあるでしょうし、慣れてくると思うので、途中で何か言えばいいことだと思うんでね。違う人がいるということはすごく新鮮ですよね。そういう意味でも別に介護とか看護師とかっていうふうな特別なかたちじゃなくても、全然いいと思うので募ってみたらおもしろいかもしれないですね。

佐久間部会長

門真市はそれに類することをやっていないんですか。今みたいにそんな教室にずっといるというのはないとは思いますけども、地域のボランティアが入っているとかの例はありませんか。

国吉副部会長

水曜日の学習の学び舎Ｋｉｄｓ、土曜日の学習のサタスタ等はこれにあたるかなと思います。あと地域の方に教えてもらう行事等がありますね。

齋藤委員

本校では学校支援地域本部の方が 28 年度は毎週木曜日に来ていただいて、図書室の開放を手伝っていただきました。

佐久間部会長

日常的ではないけれども、定期的になり部分的に入ってもらっているということですね。

もう少しお金を掛けるボランティアやもう少しお金が掛かってもいいということがあれば、いかがですか。

では、資料の 10 ページと 11 ページを開けていただきます他府県の取組というのはあるんですね。資料４の 10 ページの右下のコマですね。そこには都道府県独自で予算化した専門スタッフをということで、例としてスクールカウンセラー、相談員、生徒指導関係、各種サポート等、学習支援アドバイザーそれから、スクールソーシャルワーカーとか。それからあわせてその真下のコマの 11 ページの右上のコマで言うと少人数の学級編制を進める上で課題があったというようなことも参考資料としてあるので、その辺でもし興味があるとか知っているかこれ何かわからないとか、参考にしてもらってこれ以外に何か思いつかれるものがありますか。

これがいわば学級担任として雇うお金で、他に使い道があるかなというところの１つの例かなというものですがいかがでしょうか。

何か興味深そうとか分かりにくいとかありませんか。

小林委員
　すいません、今学校の担任の先生ってすることいっぱいあるじゃないですか。学校が終わった後もいろいろやることかとたくさんあって、大変じゃないですか。それをサポートすることによって担任の先生の負担って少なくなるんでしょうか。少なくなればそれだけ生徒のことも見れるんじゃないかなと思うんですよ。先生が疲れてしまうと、きめ細かな仕事ができないと思うんですよね。それが緩和されるのであればサポートしてくれる人が入ってもいいかなと思うんです。どうなんでしょうか。

国吉副部会長
　学校は今多忙だと思います。だから今言っているようにサポートをしてもらうのはありがたいと思います。その分で、授業でもそうですし、子どもたちと接する時もそうですし、やっぱり人間として心に余裕がある時とそうじゃない時に接し方が全然違うと思います。余裕があれば、上手に授業ができますし、上手に指導ができます。余裕がないとそこにもやっぱり歪みが出てくると思うんですね。そういう非常に有難いです。サポートに関しては。

佐久間部会長
　例えばどんなとかありますか。

齋藤委員
　クラスの数が多くても少なくても最近の子どもたちの中にはいろいろな家庭環境を抱えたり、人間関係で悩んだりする中で、不登校であったり問題行動を引き起こすような子どもがいるかなと思います。そういった部分のサポートというのが今学校現場ですごく必要かなというのは痛感しています。学校教育課で子ども悩み相談サポートチームがあるんですけれど、そちらの方のカウンセラーの方に頻繁にお願いして子どもの心のケアとか相談とかしていただいていますけど、そういった部分で学校をサポートしていただけたら、教員としてもありがたいなと思います。

佐久間部会長
　今の話を聞いてどうですか。

小林委員
　すいません、学校の先生ってすごい大変とういのを実感した話があります。

知り合いが学校の教師をやってまして過労で亡くなりました。担任を持っていたんですけど、過労で心不全で。学校が終わって自宅に帰って、普通にお風呂に入って、今日は疲れたから休むということでそのまま亡くなりました。その母親の話を聞けば、やっぱり教師という仕事って大変だっていうがあったらしくて。そういうことがあって先生がすごい大変なんだというのを聞いてます。

その中で本当に子どもの教育、充実した教育、ゆとりのある教育ってなんなのかと思った時に、その先生の負担って体何だろうと思った時にやっぱり雑務が多いんじゃないかなと思います。例えばクレーマー対応であったりとか、保護者の対応であるとかいろいろあるじゃないですか。そんなことまで学校の先生が面倒見ないといけないなということが今多いじゃないですか。学校の先生は子どもに勉強を教えて、社会性を教えてというのが趣旨はないですか。でも、子どものしつけまで今先生は大変だと思うんですよ。子どものしつけは親がするものじゃないですか。まして親のこととか家庭の環境のこととか問題とかそんなことまで学校に求めること自体先生には大変だと思うんですよ。そんな中で本当に学校教育は成り立っているのかなという心配があります。その中で少しでも、難しすぎて分からないんですけども、サポートできてうまく回ってくれたら、そっちに予算を使うんだったらいくら使ってもいいかなと思うんですけど。すいません何を言っているのか分からなくなってしまって申し訳ありません。

佐久間部会長

ありがとうございます。お知り合いの方が過労死をしたことをおっしゃっていただいたわけですけれども、教師、学校の先生がどこの部分に負担を感じていてどんなサポートが必要なのかっていう分析のようなものがあればいいですよね。そこにきちっと対応できる人というか職種というかサポートが、同じ予算でもし予算が限られているのであれば、この 35 人学級に使うのか、あるいはそういうより効果的なあるいは発展的なものに使っていけばいいのかというようなご提案かなと思いますけれども。保護者対応とかしつけとか、教師の負担感とかそういうのも含めて学校側から何か心当たりのあることとか、35 人学級なのか例えばそういうきめ細かなとか、全部が良いとは思いますが、優先順位とか何かご意見ありますかね。

齋藤委員

学校外のことであったり、放課後における人間関係の壊れであったりとか、学校内ではそんなこともないんですが、家に帰ってからの問題行動で連絡があって、学校が解決にあたるっていう場面が本当に多いなとつくづく感じます。

先生方も本来は授業とか学校内でのことにもっと時間を割きたいのに目の前にそういった事象が起きているので、それをほったらかすわけにもいかないので、そちらの方にエネルギーを随分に注がれているなという場面を、随分見たように思います。

佐久間部会長
　中学は忙しいですね。クラブ活動があってね。

国吉副部会長
　小学校、中学校のどちらも経験している立場で話をしますと、中学校現場で話をしている時ですけれども、当然教師ですから、授業をしますよね。部活動も生徒指導も仕事として考えているわけなんです。大学を卒業して教師に付いたということなんだけども、その時に単純に考えたら子どもたちのために授業をすればいいという感じで来ているんですが、実際入ると授業以外に他の負担になる仕事が結構あるんです。それが教師の多忙化に繋がっているのではないかと思います。
　当然中学校だけではなく、小学校も同じです。授業だけじゃないんです。その他の業務が加味されて、先生方の負担増につながっているということですね。保護者の電話対応もそうですし、確かにボタンの掛け違いがあってその先生にも至らないことがあったかもしれませんが、そういうことが再三起こると教師の疲労感に繋がるのも事実です。

佐久間部会長
　事務仕事が増えていると、そのこともよく聞きますけども、それはどんな感じなんですか。どんどん増えていっているものなんですか。

齋藤委員
　教頭の事務仕事は相当増えていまして、それはイコール教員の仕事も増えていると思います。教頭に来たものを教員に振ってお願いすることもありますし、そういった部分で教員も事務的な処理は以前に比べたら増えているんじゃないかなと思います。

佐久間部会長
　あともう１つお伺いしたいなと思ったのが、先ほどその他府県の取組事例でスクールソーシャルワーカーとかいくつか事例が上がっていますけれども、この点は今の議論の中でいうと有効に役立てることができる人たちはどれとどの

人とかあったりしますか。できればほしいとか

齋藤委員
　スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーは是非来ていただきたいと思います。

佐久間部会長
　それは現状いないということはありませんよね。

齋藤委員
　定期的に来るということは本校ではありません。

佐久間部会長
　定期的には回ってきてくれないということですか。

国吉副部会長
　確かスクールソーシャルワーカーは４校ぐらい来てくれていませんか。

事務局（三村学校教育課長）
　スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーですが、スクールカウンセラーは門真市には６つの中学校があって、ここには府から来てもらっています。週に１回です。各中学校に週に１回入っております。それ以外に今年からの府の事業として、市内の小学校４校にカウンセラーを週に１回ですけども入っています。逆にいうと他の学校は常時いないという、スクールカウンセラーについてはそういう状況です。
　あともう１つスクールソーシャルワーカー、おそらくなんだろうという感じもされると思うんですけれども、スクールは学校、ソーシャルは社会、ワーカーはつなぐという意味でいろんな外部機関と学校をつないでその子の課題を、これはこういう機関につないだ方が良いというコーディネートーをしてくれるような存在で今学校にすごく求められているような存在となっております。
　実はこの方も全校には付いておりません。先ほど言った小学校４校にカウンセラーが行っていると話さしてもらいましたけども、同じ学校にスクールソーシャルワーカーが行っている状況、逆にいうと他の学校にはいませんということです。
　ただ、一方５年位前から本市としてカウンセラー、つまり心理カウンセラーと、スクールソーシャルワーカーと、元校長先生、あと家庭まで行って相談に

乗ってくれる方２人、この５人でチームを組んでサポートチームというのを教育センターの中に１チーム設けています。この方が 20 校回りながら対応しているという状況です。全部の学校にこういう方がいるというわけではないのが現状です。

佐久間部会長
　ありがとうございます。時間が予定する時間を過ぎて来ているので、最後もう少し意見を言いたいという方がいらっしゃったら、どうぞ一言ずつでもと思うんですけどもいかがでしょうか。結論というのは今日は出せない感じですので、まとめて終わりたいと思っているですけれども、もう一言ずつということで、前半これで休憩に入ろうかと思っておりますが、横貫委員いかがですか。

横貫委員
　先生方が多忙で不幸があったという話も聞きまして、他府県の取組事例のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの話聞いても思ったんですが、これは生徒ですが、先生に付けてもいいんじゃないですか。

佐久間部会長
　子どもの相談相手ですか。

横貫委員
　いえ、先生に付けるということです。

佐久間部会長
　先生に付けようということですか。

横貫委員
　そうですね。先生が多忙でストレスを抱えているということですが、これは子どもですよね。

国吉副部会長
　先生もスクールカウンセラーに相談をすることもあります。しても構わないと思っています。

横貫委員
　実際していますか。

国吉副部会長
　している方もおられます。

佐久間部会長
　子どものことでですか。

国吉副部会長
　子どものこと以外に、自分のことも相談している方もいらっしゃいます。
　クラスの子どものことで悩んでいるので仕方ないなと思っています。

佐久間部会長
　家庭のことではなくてですか。

国吉副部会長
　それは違います。

横貫委員
　楽になれればいいので、話を聞いてくれる人がいればいいと思います。いいかなと思いますよ。

佐久間部会長
　先生の話も聞いてくれるような人がいればいいという話ですね。ありがとうございます。小林委員いかがですか。

小林委員
　私もそう思います。

佐久間部会長
　ありがとうございます。
　齋藤委員と国吉委員は最後に一言ございませんか。

国吉副部会長
　すいません、討議の柱が１、２，３とありますが、今は１だけですが。

佐久間部会長

１だけで１時間で、休憩入れて次また１時間です。

国吉副部会長
すいません、話がそれてしまいますが、自分の学校なんですけども、設備面が非常にきれいな学校です。本当にありがたく思っています。そのことで子どもたちと環境というところで１つ言わせていただきたいと思います。
やはり環境は子どもたちを落ちつかせる１つの要因になると思うんです。本校がこういうかたちで施設面を整えてもらったんであれば、予算的にかなりしんどいかもしれませんが、他校にも同じような施設等を作ってあげたら子どもたちの落ち着きにある程度影響を与えるだろうと思いますので、また今後ともよろしくお願いいたします。

佐久間部会長
時間のない中で申し訳ありませんが、この設備というのはどういう設備ですか。

国吉副部会長
木の温もりがすごく感じられる学校になっています。トイレも乾いたタイプっていうかドライタイプのトイレでして、非常にきれいで、汚さないいいですし、廊下もきれいですから、裸足、靴下を履いた状態でそんなに汚れない、非常にきれいです。

佐久間部会長
最後に齋藤委員お願いします。

齋藤委員
学力を向上させるのももちろん学校の大切な役割であると思いますが、またいろんな生活背景がある中しんどい思いをしている子どももたくさんいてると思いますので、そういった部分において、もちろん授業をするのは教員なんですけど、それ以外の部分で先ほどスクールカウンセラー等のソーシャルワーカーを是非配置していただきたいと思います。学級増になることはもちろん学校は大歓迎なんですけれど、それプラスそういった部分で子どもの生活面、心理面の支援サポートなんかもしていただけると嬉しいかなと思います。

佐久間部会長
ありがとうございます。前半の時間が来ましたので、簡単にまとめて前半を

終わりたいと思います。

一応前提として、人数が少ない学級編制はきめ細やかな指導ができるのでそれにこしたことはないと。ということが前提でありながら、しかし限られた予算でより有効に活用できるような方法も、例えば残念なことですけど教師の過労死に遭遇した話もいただきましたが、どの部分に教師をサポートしていけば、より先生方が心にゆとりを持って子どもたちへきめ細かい教育をできることになるのかと。そのためには、例えばアルバイトやボランティアの方を活用するとか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとかあるいは場合によれば先生の話も聞いてあげるようなこと、あとは学校環境のことか様々な側面から柔軟な活用や制度の改善等を検討してはどうかという幅広いご意見をただいたということで一旦これでまとめておいて、次につなげていきたいなと思います。よろしいでしょうか。

では、８分休憩して、次は 45 分スタートにしましょうか。ありがとうございます。

○２．「小中一貫教育を進める環境づくり」について

佐久間部会長

それでは始めましょうか。時間の設定だけお願いします。

事務局（三村学校教育課長）

今から大体 40 分ぐらいの目安で議論していただけたら助かります。

佐久間部会長

16 時 30 分に話し終わるイメージですかね。

事務局（三村学校教育課長）

はい、お願いします。

佐久間部会長

では今日の難しい議題の２つ目ですが、これまでの会議の議論で、冒頭会議録の話がりましたけど、小中の円滑な接続でありますとか、一定の段差は必要だけれども、段差を解消していくことが必要だとか教科担任制であるとかという議論がありまして、今日が議論の一定の区切りということで２つ目ですが、円滑な小中の接続のための有効な学校環境とはどういうものか、それから具体的に言葉が出ていますので併せてご審議いただきたいんですけれども、門真市において義務教育学校を視野に入れて今後の学校のあり方を考えていくということで、どちらの方向からの意見をいただいても構わないんですけれども、一定小中接続のための有効な学校環境その１つの手だてとして義務教育学校という言い方をされていますので、あわせて議論をしていきたいと思っています。

先ほどのプレゼンテーションの中にも守口のさつき学園、その映像も出ていましたが、あの辺からもイメージしていただいて、小林委員や横貫委員からまたいいなとかいう。

小林委員

いいなと思いました。

佐久間部会長

もう少し言ってもらえませんか。門真の学校はよくなくて、あれはすばらいしとか。

パワーポイントのスライドのコマを復習がてら見てみましょうか。

国吉副部会長
　教室の大きさも違いますね。自由に抜けられて広くなったりとか。プールも屋上で、緑化され花壇なんかもあっていいですね。

佐久間部会長
　門真市にもあったらいいですか。

小林委員
　そうですね。
　門真市の小学校、中学校も綺麗なところが結構あるじゃないですか。有効に使ったらいいんじゃないですか。
　五月田小学校も綺麗になったし、あそこも落ち着いて。

佐久間部会長
　横貫委員は初めの感想はいかがですか。

横貫委員
　さつき学園いいですね。緑が良いですね。下靴がいらないですね。裸足で良いですね。私はサッカーをしているので、あの芝生はいいですね。あと教室のレイアウトを面白いですね。テレビで見たことがあるんですが、教室と教室との境がなくて、こっち側で授業やっていてこっち側でも従業をしているというのは面白いなと思います。一気に２つのことを聞けるようになるなと。よく居間で勉強した方がいいとかっていうじゃないですか。騒いでても集中するとかっていう、そういうことができるようになるのかなと思ったりしていいなと思います。トイレもすごく綺麗ですね。はすはな中学校もすごくいいですよ。廊下にもベンチもあって会議室もすごく綺麗でいい学校だなと思いました。いいじゃないですかねと思いました。

佐久間部会長
　ありがとうございます。これは一つの結論でいいんですが、作って欲しいなぁというのが市民の意見ということですね。ですが、この議論で深めていかなければならないのが、小中一貫とか義務教育学校ということで言うと、建物には１年生から９年生がいてそこの辺りで思うところを聞いていきたいなと思うんですが、その辺はいかがですか。この間ずっと議論してきたことではありますが、建物に１年生から９年生が入っている。そういうスタイルは。

小林委員
　私は理想としてはそれが一番いいかなと思っています。

佐久間部会長
　それをもう少し思うところがあれば

小林委員
　小学校と中学校を一つの建物にすることで、小学校低学年から中学校高学年が一緒にいた方が全体として見やすいんじゃないかなと思うんですけど。
　小学校の先生と中学校の先生が近くにいることになるので、１つの建物の方が効率がいいといういと言い方がおかしいかもしれませんが、いいかなと思うんですけど、どうでしょうか。

佐久間部会長
　横貫委員はいかがですか。

横貫委員
　一体型と分離型とかこの前話があったと思うんですけれど、作るとなると一体型の方がやっぱりいいような気がします。分離型で考えたら、それ名前だけということになるので。何が違うのか、名前だけとしか思えないので、一体型でしたら、教師の方たちはどうなんですね。仮定したら。さつき学園は最近なんで私も仕事でさつき学園のお客さんはいないので、情報が入ってこないんですね。何にも知らないんですけども、綺麗だ綺麗だということと母校がなくなったということしか聞かないんですよね。
　学校のこれを見ていても上がってこないんでしょうね。
　なのでその辺がよく分かりませんが、仮定した場合に学校の先生はどう思われるんですかね。逆にそれを聞いてみたいですね。小学校免許を持っている先生と中学校免許を持ってる先生とは別なんですよね。この方たちが同じ建物の中に入ってずっと９年間生徒を教えるっていうことをイメージしたときにどういったメリット、デメリットが生じるのかなというのは聞いてみたいところです。

国吉副部会長
　まず職員室なんですけども、全部一つにみんなが集まっている大きな職員室があります。そこに小学校の先生も中学校の先生もいて、例としては浮かびませんが、やっぱり子どもたちを９年間見ていくということで当然小学校のこと

も中学校の先生は知ることになりますし、逆に中学校に入ってからも小学校の先生も中学生の様子もずっと見ていくことになるので、そういったことでは連携というか否応がなしにその場におりますから、子どもの指導に関しても段差のない状態で、フラットな状態で上がっていくというものができるじゃないかとは思います。小学校で何をしているのか、逆に言うと中学校でなにをしているのか、それぞれの教科は、私は理科なんですけれども、単元の配置はどういう状況で、中学校の発展学習に変わっていくかという辺が、横でやってますからすぐにここでこういうふうなことやっているのかっていうのは分かりますから、非常にそれもメリットにつながるかと思います。
だから今出ていますけれど、一体型が一番いいと思うんですよ。ただ門真市は財政的にかなりししんどいですから、実質とるならば分離一体型しかないかなという、前も言ったと思うんですけれども、四中、脇田、七中、五月田、この辺あたりから、これが実質かなとは思っております。以上です。

齋藤委員

９年間を見通した教育をしていくことが、大切であるということは前の議論でもあったかなと思うんですけど、はすはな中校区でもそういったことで取り組みを進めていっているところです。先日火曜日にはすはな中学校区で合同授業研究会でということで本校で授業を行いました。はすはな中学校の先生と門真みらい小学校の先生全員に来ていただいて、３クラスの授業を見ていただきました。また夏休みにも９年間の教育活動における課題等を整理してその課題に対する分科会を行い、二学期以降の取組をどうしていこうかという話合もするんですけど、その日程を調整するのも実際それを行うに当たっての事前準備もすごく大変でした。それが１つの学校で行えるってことは、課題にも載ってましたけど、そういった部分でもスムーズにいくのかなと思います。また子どもの話を常時先生方はしていくので低学年の時はこうだったなという話を中学校の先生が間近で聞けるというのはすごく大きいことだなと思います。

佐久間部会長

今横貫委員からも小林委員からも施設一体型がいいなぁという話で、あの学校側からも一体型が理想的だという話があったんですけれども、横貫委員から分離型は名前だけだというご指摘があって、今もうやってるんですよね。門真の小中一貫連携やっておられて、もちろん義務教育学校ではないので、いわば施設分離型でカリキュラムだけ相談するなりしている、市民から名前だけだとうご指摘がありましたが、実態はどうなんですか。

齋藤委員
　名前だけで終わらせないように努力します。

佐久間部会長
　具体的なところでは前の会議の重複になるかもしれませんが、例えば教育課程を連続させているとか子どもが、先ほどからおっしゃってる子どもの引継を丁寧にしていくとかということで効果があがっている点とか逆に分離しているのでなかなか効果が上がっていないんだという辺りも教えていただけたらと思うんですが。

齋藤委員
　生徒指導にかかわっては３校が定期的に集まって情報交換をしているので、兄弟関係であったり、そういった部分ではすごく良いと思います。逆に一学期に授業をし、夏休みに合同研究会というだけで終わってしまっていて、連続していかないという部分が課題かなと思います。一貫教育ということは分っているんですけど、日々の目の前の業務に追われていて、そこをなかなか打開できずにいます。施設が違うとそこら辺が難しいかなというに思います。

佐久間部会長
　ありがとうございます。

国吉副部会長
　今頭の中でイメージしていたのは一つの職員室の中に、小学校の先生も中学校の先生もいて、私は中学校の立場で小学校の先生の動きを見ているイメージをしたんです。この単元はこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというような声掛けができるなと思って。もしよければそこの授業をしようかという授業交流のようなものも気楽にやりやすいなという、やってみたいなという気になるなあと考えていました。

佐久間部会長
　ありがとうございました。
　関連してなんですが事務局に質問なんですけれども、教員の免許との関係の質問がありましたが、少し補足の説明をお願いします。

事務局（髙山学校教育課参事）

今、横貫委員からのご発言で小学校の免許の先生たちと中学校の免許の先生がいているんですよねというお話があったと思うんですけれども、義務教育学校は理念としては、小学校の免許、中学校の免許両方を持っている方を配置するという考え方なんです。ですので、後期課程とよばれている中学校の先生が、前期課程の小学校部分の担任であってもいいわけですし、小学校の前期課程にいてた方が、次の人事配置で中学校の後期課程部分を教えてもいいと。ただやっぱりなかなか今始まったばっかりで歴史も浅いので、原則併有ということで、今小学校免許だけでも配置できますし、中学校免許だけでも配置できるんです。今後の課題ではあると思いますけれども、小学校の先生、中学校の先生という概念もなくなって義務教育学校のそこの所属の先生なんですっていうところが最終めざすところなのかなという気はしております。

佐久間部会長

ありがとうございます。もう１点、この話も今日のご意見では皆さんから出ていないんですけれども、今日の冒頭の全体会の意見で出ていた段差の問題ですよね。これは１回目の議論、自立のときの議論で段差があった方がいいという議論と段差はやっぱり乗り越えられないような段差はいけないという議論とかがあって、今日の議論だとどちらかというと段差なく行きましょうという今のこの 15 分間の議論ですが、段差のことをこれ義務教育で１年から９年まで連続していると段差ができないんですけれども、これはどうしますか。小林委員何かご意見があれば。

小林委員

それなりに段差はやっぱりあるんじゃないでしょうか。

それがやっぱり小学校の高学年から中学校の頃って思春期に入りますよね。もうその段階でこれ壁じゃないでしょうか。段差じゃないでしょうか。

佐久間部会長

見えないですよね。制服がなかったりとか。卒業式、入学式も改めてなかったりとか。昨日まで 12 歳で明日から 12 歳＋１日の違いが見えないですよね。

小林委員

やっぱり分かるんじゃないですか。変化というのは出てくるから、そこで段差があって一貫校になっても、その辺は出るんじゃないですか。

横貫委員

でるんじゃないですかね。多分親ともしゃべらんでしょう。どこかの段階でしゃべらなくなって、どこかの段階でまたしゃべるんでしょう。ただ中１ギャップというのがよく分からなかったので、逆にその段差がよく分からなかったので、私自身は感じなかったことなんで。

佐久間部会長

中一ギャップはいくつか定義はあるんですけれども、現象面としては不登校が３倍になったりとか、小６から中１に上がる時に不登校が３倍ぐらいなったり、暴力行為も３倍とか５倍になったいりとか、不登校も３倍ぐらいになったりとかなんで、いじめも３倍ぐらいになったりとかそういう感じの生活指導面が急にしんどくなるというのが中一ギャップと言われているものですね。それがこの小中一貫教育とか小中連携を推進するという国の流れの１つのきっかけにはなってるということなんで、それはなくなるように言われていますね。データもあるのですかね。

事務局（三村学校教育課長）

データではありませんが、先日さつき学園に見学に行った時にも、それは確かに緩和されてるという話はありました。

佐久間部会長

もう１つは子どもの成長によって段差が自然にできると、僕もそうかなというのは思うんですけれども、そこと教科担任制みたいなことを随分前にご指摘されたんで、その辺をあわせるとどうなりますか。１年から９年まであるんですけれども、先ほどの提案では４で区切って次に３があって最後に２があるという区切りが出てたんですね。提案というか守口の例で。その辺何かご意見ありませんか。

小林委員

別にそれにこだわらなくても６・３でもいい、今言われた４・３・２でもいいと思いますし、取組方で変わると思います。

佐久間部会長

その辺なにかご提案ありませんか。

横貫委員

教科担任はスペシャリストですからいいですよね、早くから配置するのは全

然いいと思うんですけども。早い段階で専門分野の人がおるというのはいいような気がするんですけどね。そうなると財源の問題は出てくるとは思うんですけども。

佐久間部会長
　当初のここの部会でのまとめでは、低学年ではきめ細やかに一人の先生が見ていった方がいいんじゃないかということで一旦まとめて、一定の段階の所で教科担任制が入ってとという話で、１年から９年まであるとするとそれはどの辺でいったらイメージは来ます。今日は別に具体的にそれ決めるということでも何でもないんですけれども。

横貫委員
　４年生ぐらいですかね。

佐久間部会長
　４年生ぐらい。はい。
　もう少し話を広めたりしながらですけれども、デメリットみたいなことを想定をしたいなと思うんですがいかがですか。まず市民の方いかがですか。

横貫委員
　それは一貫校にした場合の点デメリットですか。

佐久間部会長
　そうです。小中一貫施設一体型です。

横貫委員
　１年生でいじめられたら最後までいじめられますね。
　よく学校が合併してたじゃないですか。門真みらい小と浜町小学校と中央小学校。

国吉副部会長
　浜町小学校と中央小学校とが一緒になって、北小も一緒になりました。

横貫委員
　３つ一緒になってますね。あの時、保護者がうるさかったでしょ。それはあっちの小学校が悪いから、それはあっちが悪いからというのがすごいありまし

たよね。確かあって、未だにそんなことを言っているようにも思うんですよね。今、最近はないかもしれませんが、他のところではあるって聞いたんですよ。一緒になるっていうことは、その小学校とどこどこの小学校とどこどこの中学校が一緒になるというのは、最初は多分だからそこの小学校が悪いからだとか、中学校があるからあれだとかていうデメリットというのは、その１年生が出るまでの９年ぐらいはあるんでなかろうかと思います。PTA の揉めごともよくありますよね。どちらでもいいと思うんですが、地域であっちが悪いとかあっちは祭りをやっているが、こっちはしないとかそういうものぐらいじゃないですか。それをするのはまた先生方なので大変だなとは思いますが。

佐久間部会長
　その辺は小林委員はいかがですか。

小林委員
　一緒ですね。それさえ乗り越えられたらうまくいくんじゃないかなと思いますが、最初は大変だなと思います。

佐久間部会長
　イジメに代表される人間関係が固定化されるということについてはどうですか。

小林委員
　そうですね。それは避けて通れないと思います。それが一番のデメリットかなと思います。

佐久間部会長
　こういう意見を受けて学校側はどうですか。

国吉副部会長
　少しずれるかもしれませんが、９年間の子どもたちがいるということは小学校でいうと６年間中の６年生が一番最上級学年なんですね。そうすると小学校６年から見た場合に子どもたちは僕らは最上級学年だからとがんばる意識を持ちます。それなりに教師も６年生だからこれもできるいろんなことができると思います。ところが９年間になった場合に、その６年生位置づけというのはそのままたも保たれるのかどうかという心配がありますね。まだ自分たちの上に３年間の生徒がいると。確かに組織で見たら児童会が６年生までで、それから

生徒会の３年間に分かれています。そういう教師の意識の持たせ方、子どもたちの意識の持ち方というところあたりがどこまでポテンシャルを保たせることができるのかなと思います。以上です。

佐久間部会長
　確かに小学生は６年生が今のイメージでは何でもひっぱっていくという感じですが、それはどう想像しますか。

齋藤委員
　確かに６年生から中学に上がる時の切り替えというのは難しいかなと思いますが、そこは教師側、学校側の仕掛けが必要なってくるんじゃないかなと漠然とですが思います。あと１年生のいじめの話があったんですが、小学校１年生と中学校３年生が同じ敷地内にいて、この２学年が関わり合いというのは、すごくかけがえのないものだと思います。６年生も１年生にかかわる時はすごく優しくて、これまでと全然違う表情を見せています。それが中３と小１だとまた違う部分が生まれ、中３にとっても、小１にとってもプラスの部分があるかなと思いました。

佐久間部会長
　少しイメージを膨らませたために具体的な話にもう少し突っ込んでお伺いしますけれども、例えばその齋藤委員がおっしゃった６年生でおそらくあえて少し段差をつくるような学校側の仕掛けというのは、さらに具体的なイメージでいうとどんな感じですか。
　４・３・２にすると卒業式をしにくいですよね。６・３ならば今までのイメージと同じで一旦小学部を卒業でセレモニーをすればいいと思いますが、何か事例ありませんか。

事務局（三村学校教育課長）
　６年が終わった時点で７年目が始まる普通で言うと始業式ですが、特別な会を設けて、ここから行くぞという行事をつくっている学校は多いみたいです。それが７年目なのか４年で終わった５年目なのかという意見はあると思いますけど、その研究している学校はその区切り区切りには何かしらの行事を入れて、子どもたちの心をリセットするような取組はされてるというふうに聞いています。

佐久間部会長

６年に限らずですね。なるほど。
池田市にほそごう学園という施設一体型小中一貫校があって、そこは呼び方は１年から４年が前期と呼んでいます。５・６・７年を中期と呼んでいて８・９を後期と呼んでいますね。具体的に何をしているかは知りませんが、今三村課長がおっしゃったのは前期から中期にあがるところで少しセレモニーがあったりとか、そんなイメージですよね。それなら確かにここでの教科担任制の議論も併せて、なおかつ少し段差をつけて意識とかの他のいくつかの問題もクリアできそうな感じもしますよね。
もう少しせっかくなので、門真の状況をよく分かっていないので、せっかくなのでいろいろ聞いてみたいんですけれども、義務教育学校、例えば何となくつくってみたいなっていう、今ここの４人の委員さんの意見かなと思うんですけれども、財政のことを無視して、すべての門真の学校を初等教育学校にするのか、財政のことを少し考えてここに作ったら効果的だとかあるんですか。

小林委員
モデル校として１校作ってみるものいいんじゃないでしょうか。

佐久間部会長
どこですか。
何か意図があるかと思って。

小林委員
いや、ないです。

佐久間部会長
いろいろな面で、古いから潰そうとか。この地域に作ったら効果的だとか。何か分かることがあれば。

小林委員
１つにするのは財政的に大変だと思いますので、中学校と小学校をできたら一番近いところにある学校をモデル校にしたらいいんじゃないでしょうか。離れているのではなくて、出来るだけ近くにある学校をモデル校にするというのは、どうなんでしょうか。できるだけ近い方から交流もしやすいと思います。例えば、どこが近いんでしょうか。

国吉副部会長

近いと言えば五月田小と七中、脇田小と四中が近いです。

小林委員
ああ、例えば七中と、五月田小は校舎が綺麗になっているので、小中一貫校とし整備して七中の方を広めの運動場を作ってクラブ活動を大きくしてみるとか、使い方は考えられると思います。ただ近い所がいいかなと思うんですね。

佐久間部会長
いろんなことを考えてそうおっしゃっていると思いますが、個人的にはどこがいいと思いますか。

小林委員
個人的な希望ですか。すいませんどちらも遠いので。

佐久間部会長
例えば私が子どもが通っていた学校がもしそうなったら、こんなふうにいいなとか、もう少し個人の希望を入れるとどんなお話になりますか。

小林委員
やっぱり一つが良いです。

佐久間部会長
どこの校区になりますか。

小林委員
三中校区です。

佐久間部会長
そこはやりにくいんですか。

小林委員
小学校と中学校が少し離れていますね。

国吉副部会長
離れていますね。一中２小なんですが、いずれも離れていますね。

佐久間部会長
　それは小林委員の校区がもし一緒になったら子どもたちにどんなメリットがあるとか、うちでしたらこんなメリットがあるとかはどうですか。

小林委員
　環境センターがすぐそばにあるのでそこの見学に行けるとか。

佐久間部会長
　子どもたちにとっても。

小林委員
　はい。

佐久間部会長
　ちょっと考えていただけますか。モデル校なんで、ここで作ったら一番モデルになるという、門真市の子どもたちのためになるという何かがあれば、意見としては強いなと思うんですが。
　少し置いておいて横貫委員、どこにつくればいいかとかもう少し具体的なイメージがあれば。

横貫委員
　やっぱり七中と五月田ではないですか。

佐久間部会長
　そうなんですか。

　横貫委員
　小学校が遠くなったら小学校１年生が中学校まで30分歩くとなると駄目なので、一番近い所となると七中と五月田小ですね。七中は古いですし。そこが良いかなと思います。

佐久間部会長
　ありがとうございます。少し横道にそれすぎたかもしれませんが、どうですか。門真市でモデル校を作るとなると、こういう観点でここと か、今地理的な観点で話が出ましたが、学校側で地理的な観点だけではないこととかありませんか。より教育的効果があるとか。

国吉副部会長
　どうしても敷地面積がありますから、そういう大きな土地があるわけではありませんので、現状学校がある土地を考慮すれば、近い所が一番かなと思いますね。

佐久間部会長
　教育的効果とか今日議題になっている少人数で効果が上がっている上がっていないとか学力が低い高いとかいろいろなグラフが示されましたが、せっかくこれにするなら教育的効果とかの観点とかも欲しいなと思っているんですが。

国吉副部会長
　多少ながら二小一中の七中校区ですので、そういったところでは学習面も生徒指導面もいろいろと改良していますけども、きっちりと系統立ててしかも小と中学校の先生が話ができるような場を設定して、やるんであればそういう形、義務教育学校を設置するのが一番かなと思います。モデル校は絶対に一つは必要だと思います。

佐久間部会長
　先生は七中校区なんですね。

国吉副部会長
　自分のところで申しわけないです。

齋藤委員
　地理的なことを考えれば七中校区かと思いますが、小中一貫教育がより進んでいる校区として、はすはな中学校区はいかがでしょうか。

佐久間部会長
　義務教育学校にした時のメリット、デメリットは出ていましたか。先ほど三村課長の説明の中にありましたか。

事務局（三村学校教育課長）
　前半のパワーポイントの部分は義務教育学校といいますか一貫教育をやっている効果、小中一貫教育をやっている成果と課題というかたちで出しています。

佐久間部会長
　施設一体型の事例は守口市さつき学園の事例しかないんですよね。

国吉副部会長
　この近辺ではありません。

佐久間部会長
　モデル校という言い方でここで議論をしていても、いったいどういう効果が明確にあるのか、先行事例がないとなかなか分かりにくいなというのもあって、その辺の話がもう少しあると門真の子どもにどういうメリットがあってという、もう少し皆さんも議論しやすいのかなと思うんですが、今のところこのパワーポイントでいうと４コマ目の右下になりますね。文科省の資料。これは委員さんがおっしゃっていることばかりですね。
　さつき学園の先生方は何かおっしゃっていませんでした。

事務局（三村学校教育課長）
　先生方と具体的にお話しする機会はなかなかなかったんですが、１つはハード面の部分の話がありました。あとは教育課程でとここに至った流れの話がありました。小中一貫校の特色を生かしたより学習環境を整えていきたいという部分と、特徴だと思うんですけども、自然環境を感じながら地域の拠点となるようなというころも守口が作った時には目標に据えたと、それはもう話し合いをされて、そこに持っていったんだとは思いますけども、そういうふうに門真もどういうふうに持っていこうという話をして作っていくのがいいのかなとは感じました。

佐久間部会長
　これは学力が上がったとか、そんな簡単なものではないとはよく分かっているんですけれど、そういう目に見えた効果みたいなことは何かあるんですか。

事務局（三村学校教育課長）
　先日はそういう部分はまだ始まったばかりということで、数字として具体的なことは聞いておりません。

国吉副部会長
　もともと私が中学校で教えていた時は守口三中校区は割と高い成績だったと思います。だからそれは継続されているんじゃないかなという気がします。今

現在はどうかは知りませんが。

佐久間部会長
　とすると門真にとって効果があるということを予想していこうとすると、ここ１校を見学して良さそうだと写真を見たら綺麗に見えて今日はそんな感じですけど、それだけだと不十分な気がしないでもないです。もう少し一杯あるでしょ。全国に。全国でなくても近隣にでも。例えば門真の子どもたちの学力によく似た市町村の小中一貫校で、例えば学力向上に具体的に成果が上がっているとか、あるいは先ほど委員がおっしゃったいじめなんかのことでも、実は中１ギャップのことも含めて、うまく取り組めているとか、そんな事例がもう少し紹介をしていただくと、何となくイメージが湧いて、こんな学校を作ろうみたいな次の議論に進めるかなと思うんですけれども。
　よろしいですか。時間が来ているので最後に特に何か意見があれば、もうまとめに入ろうと思っているんですけれども、一言ずつでどうですか。小林委員どうですか。もうしゃべりきりましたか。

小林委員
　はい。

佐久間部会長
　横貫委員いかがですか。

横貫委員
　はい。小中一貫校を門真市に是非作りましょう。以上です。

佐久間部会長
　ありがとうございます。齋藤委員いかがですか。

齋藤委員
　私も是非作ったらと思うんですけれど、今佐久間先生がおっしゃっておりまたが他市の門真市に似たような状況の学校もいくつか見る中で、良い所はもちろん取り入れたらいいかなと思います。その中で門真市独自の門真らしさを反映できるような施設になればなというふうに思います。

佐久間部会長
　ありがとうございます。国吉委員、最後ないでしょうか。

国吉副部会長

せっかくですからやりましょうということまで言いたいですね。やっていきましょうと。作っていきましょうと。やはり施設は考える部分、うちで最先端で斬新なものをやったんであれば、例えば一つの視点としてこれから防災に関して考える教育をするんであれば、防災拠点にもなりえるような学校母体を作ることによって地域のからみもいろいろとあると思うんですが、そういったプランを立てながら計画したらどうかなと思うんです。

当然避難所になるのはその学校ですからトイレ等の施設も同じになりますし、施設だけ使われなくてあと他に普段はフリーなんだけれども、マンホールの蓋を開けてできるとか、後は太陽光で発電ができる施設がそこについているとかが学校施設なら取り入れられるのではないかなと思いました。そういうのも検討お願いします。以上です。

佐久間部会長

ありがとうございます。もう時間が来ていますので、簡単にまとめてですけれども、門真市で小中一貫教育というのは着々と進んでいるということをここでも認識をしているんですけども、齋藤委員からもご指摘あったようになかなか日々のところでのやりにくいような側面もあるということなので、この際義務教育学校を等を是非設置すると思い切ったモデル校を作っていくという方向に向けて、しかし他市の事例をもう少し検討したり見学をしたりして、その中で門真市らしさであるとか、あるいはせっかく作るのであれば国吉委員おっしゃってくださいましたけれども設備面や地域の防災の拠点になるような多様なメリットも併せて出てくるようなものを作っていくと、そういうことに向けてさまざまな角度から検討をしていけばどうかというようなことでご意見をいただいたと思っております。これぐらいでよろしいでしょうか

ではこういうかたちで全体会で報告をさせていただこうと思っております。今日は長時間でしたけれども、ご協力いただきありがとうございます。これで終わります。